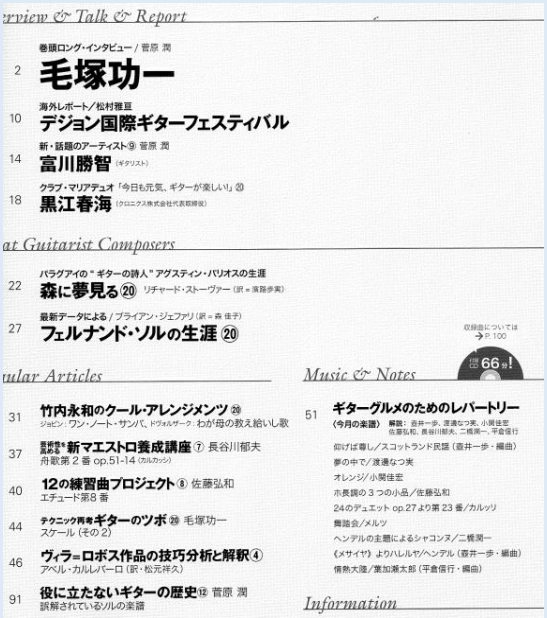
Guitar dream　NO.20(2009. 12)の紹介　by yakateru

表紙



メイン目次

【巻頭ロング・インタヴュー　抜粋・概要】　毛塚功一

毛塚氏というギタリストもすみません知りませんでした。多くのＣＤは、学習用模範演奏のものという。前半は、菅ノ又信太朗、阿部保夫、久坂晴夫などの講師遍歴の話が中心です。

- 久坂先生の生徒に渡辺範彦氏がいて、タレガの小品なのにすごくエネルギーを注いで弾くので、なんて燃費の悪い演奏だろうと思っていました（笑）。
- 多重録音をするときは、まず伴奏パートを先にやって他のパートをかぶせていきます。最後にメロディをのせて完成させます。多重録音は、頭の中でどう弾くかしっかり構築していないとだめですね。

【（新）話題のアーティスト紹介　富川勝智】

富川さんは、池田慎司さんと一緒にやっているギタリストでよく知っています。

- ローリンド・アルメイダが編曲したニャタリの「肖像」が、三重奏でとても面白かったです。
- ソルはやっぱり圧倒的にいいですね。ディアベッリは、ピアニステッィクで、ギタリステックでない世界です。コストは、中途半端ですね。
- タブ譜否定派です。まずタブ譜では声部が見えない。確かにタブ譜ではぱっと弾けるけど、ギター演奏は気楽にできない、でもきちんと勉強していけばその先に面白さや楽しさが見えてくる。
- 今、興味があるのはスペインの市民戦争の時代です。デ・ラ・マーサやアントニオ・ホセ、ロルカ、ヒメネスの時代です。トリィーナは、完全にフランコ政権側についたけど、ファリャは一度は逃げて行った。スペイン内戦の中でギタリストがどのように生き抜いてきたかに興味があります。
- ガローベからはいろいろなことを学びました。カルレバーロ等の合理的な演奏法ではなく、セゴビア式でした。彼の勧めで、アレキサンダー・テクニックのレッスンにも行きました。また、音楽表現も知的でポエティックなアプローチができる人で、現代音楽の良さも教えてくれました。

【クラブ・マリアデュオのインタビュー：黒江春海】

ギター科を陰で支える功労者だそうです。会社の社長さんです。それなりに話は面白いですね。

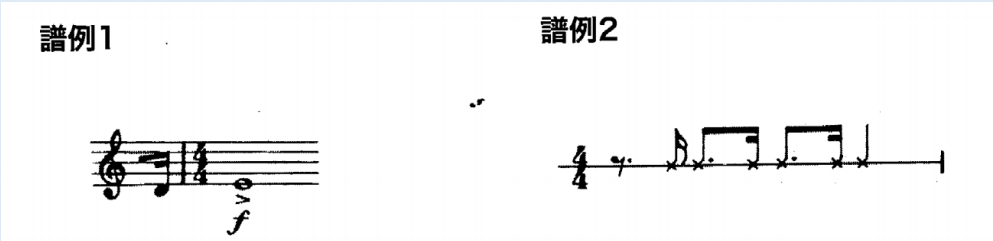
【新　マエストロ養成講座　第5回】

ＮＯ18、19 が手に入らなくてとんでいるので、このシリーズも突然「コストの舟歌に変わっています。コストの舟歌には、小品で有名な曲がありますが、今回はＯＰ51－14 の舟歌だそうです。

【新連載　ヴィラ･ロボス作品の技巧分析と解釈　第4回　カルレバーロ】

教則本で知っている「カルレバーロ」のヴィラロボス解釈が掲載されている。ＮＯ17 でプレリュード第 1 番の解説があり、以降は、練習曲の 1 番から 5 番の掲載が予定されているということでしたが、18 号、19 号が未入手のため第 4 回で、残念ながら前奏曲第 4 番の解説にとんでいます。

■　ヴィラ・ロボスは、この前奏曲第 4 番の冒頭のメロディについて「アマゾンの追憶」だといっていた。「ミ」の音で厳かに堂々と語り始め、臨時記号なく 1 オクターブ下の「ミ」で終わる。ここで重要なのは、最後の 2 つの音を導く付点のリズムである（譜例 1)。そしてこのリズムは、4/4 拍子のの小節を通して響く全音符の「ミ」を包み込みながら、エコーのように繰り返される。冒頭の 2 小節では、メロディーの次のリズムをはっきりと歌だしあげるべきである（譜例２)。つまり、この冒頭の楽節には、全く異なる 2 つの要素から成り立っている。それは、4/3 拍子のとメロディーと、4/4 拍子のリズムである。・・・・・・・・・・



■　ヴィラ・ロボスは、デュナーミクによって、この 2 つの違いを明確にしている。メロディーはフォルテ、リズムは和音を伴ってピアニシモで応えるのである。

■　このメロディーには、p の爪を用いたタッチを使わなくてはならない。

■　雑音を防ぐために、指を置く、指を持ち上げる、指を移動する、を、腕と手首によって行うことで正確により効率的に成し遂げることができる。

■

以下、詳細に演奏上の注意点が具体的に記載されている。これはなかなか勉強になります。

【その他の注目すべき記事】

■　「21 世紀のギター教本：佐藤弘和」： 12 の練習曲プロジェクト。今回はスケールの練習で、佐藤氏オリジナルの結構ちゃんとした練習曲が掲載されている。結構高度な技術が要求されています。

■　「クール・アレンジメント：竹内永和」：ボサノバの「ワン・ノート・サンバ」、ドボルザークの「我が和が母の教え給いし歌」のソロアレンジが掲載されている。「我が母親の教え給いし歌」は、とても哀愁があって美しくていいですねえ。持ち曲にしたいです。

■　「ギターのツボ：毛塚功一」：第 20 回は、重 21 世紀のギター教則本とリンクしているのか、スケールの解説です。特にスケールの効果的な練習法について解説しています。

その他、「海外レポート」等もあります。第 20 号のメインは、そんなところでしょうか。

また、Guitar dream には、楽譜と模範演奏 CD がついている。今回は、下記の楽曲が掲載されている。

ギターグルメのためのレパートリー

Guitarists

渡邉なつ実

夢の中で

タイトルのように、ゆったりと、夢の中にいるような優しい気持ちで弾いてみてください。後にも出てきますが、冒頭11 2の分散和音が特徴的です。低音をしっかり響かせながら、なおかつ上声部と内声部を弾き分けます。3 4のハーモニクスが多少忙しいですが、4のフレーズと対照させるつもりで慌てずに１つ１つの音を出すことが肝心です。最後のアルペジオは気持ちを込めて、たっぷりとためて演奏します。（渡邉なつ実）

佐藤弘和

ホ長調の３つの小品

引き続き３つの小品シリーズ。今回は気高く高貴なホ長調です。この調もギターにとっては重要な調で、多くの名曲があります。バッハ《リュート組曲第４番》、ソル《魔笛の主題による変奏曲》、タンスマン《ダンサ・ポンポーサ》など。全弦で弾くＥコードは弾き手に充実した満足感を与えてくれます。

《夜の鐘》は全編オクターブ・ハーモニックスを使う曲。19 フレットのハーモニックスの時は７フレットを押さえなくてもよいので左手の負担が減ります。静かなイメージで。《パストラール》はクリスマスっぽい雰囲気。２年前にも《クリスマスの歌と踊り》にパストラールを使いましたが、それと同傾向の作品です。《ポルカ》はおどけた感じで軽快さを持って。和音中心の曲なので押さえが少々大変かも。ホ長調はシャープが多く、押さえる音が多くなりがちなのが難点でしょう。でも克服せねば！（佐藤弘和）

ヨーゼフ・カスパル・メルツ

舞踏会

この作品は今までのメルツ作品の３曲分くらいの長さがあります。そういう意味では、演奏会のメインに据えても充分なボリューム感を持った曲と言えます。

細かく見ていくと、まず Allegro の短いイントロ。すぐに華やかさを持った Tempo di Polacca が始まります。このポロネーズはジュリアーニ風でもあります。次の Tempo di Valse はウィーン風の洒落たワルツ。そのワルツが途中から scherzando に変化し、活気が増します。それぞれのパートの音の使い方が面白い部分です。それが一段落すると、今までの３拍子系の舞曲から２拍子系に移り、Allegro non troppo。これはポルカ風。シュトラウスなどにもポルカが多いことを考えると、当時流行していたこのボヘミア舞曲をメルツも取り入れたのでしょう。そして Moderato となり一旦優雅なコーダとなりますが、やっぱり最後は Presto。半音階のフレーズと和音の連打を繰り返して華やかに盛り上がって終わります。とにかく楽しい楽しい舞踏会です。（佐藤弘和）

G.F. ヘンデル（壷井一歩・編曲）

《メサイヤ》よりハレルヤ

ヘンデルのオラトリオ《メサイヤ》より第２部最後の合唱「ハレルヤ」をお届けします。４重奏アレンジにあたって、適当と思われるダイナミクス、また対位法的に進行する部分でのテーマにテヌートを付けて、演奏のための便宜をはかりましたが、原曲にあるものではありません。ですから、とくにダイナミクスに関しては、ほかにもやりようがあるかと思います。いろいろと試みてください。（壷井一歩）

スコットランド民謡（壷井一歩・編曲）

仰げば尊し～《新 12 の歌》より

懐かしい記憶の歌が、薄緑の中に入っている。

アルペジオの前奏と後奏に囲まれた３部形式。後奏部分のダイナミクスの変化はしっかり付けて演奏してほしい。とくに5の *f* をあふれ出る追憶の感情のように聴かせるために、4の *ppp* の４小節を *tranquillo* に保つこと。そのことでそのあとの *poco a poco cresc.* が効いてくると思う。（壷井一歩）

小関佳宏

オレンジ

日常のさまざまな心境の変化を曲にしました。

最初と中間、最後に3回出てくるテーマは平穏な日々のイメージ。5～22は少し落ち込んだような感じ。後半の盛り上がりは前向きに進んで行く気持ちを表現しています。自分の記憶に当てはめて演奏してもらえたらと思います。（小関佳宏）

フェルディナンド・カルッリ

24 のデュエットより（ギター教則本 op.27 より）

速度の指示がありませんが、少し軽快に Allegretto くらいで弾くのが適当と思います。この曲は ABA の３部形式に終結部（コーダ）が付いた形で書かれています。A の部分では生徒パートが同じでも先生パートは少し変化を持たせて書かれているところなど、その違いを聴いて楽しめるとよいでしょう。B（22から）の部分は *p* や *f*、対話風な応答、フェルマータなど変化に富んだ音楽的シーンが盛り込まれていますから、それらをしっかり演出できるようにしましょう。（長谷川都夫）

二橋潤一

ヘンデルの主題によるシャコンヌ

ヘンデルのオペラ《リナルド》第２幕の有名なアリア《私を泣かせてください Lascia ch'io pianoga》の冒頭8小節を取り出して主題にしたシャコンヌです。最後はフーガにする予定です。（二橋潤一）

葉加瀬太郎（平倉信行・編曲）

情熱大陸

G- クリフの時代からソロになっても第一線で活躍する葉加瀬太郎のヒット・ソングです。肝はなんといってもリズム！　シンコペーションに満ち、ワクワクさせるようなリズムをプレイヤー全員が一致させられれば半分以上できあがったと言ってもよいでしょう。

Intro にあたるAはゆったりと官能的にルバートをかけて歌いましょう。Bの全員パーカッションは譜面どおりだけでなく、いろいろ工夫してやってみましょう。Cはこの曲の印象的なリズムパターンです。リズム感の一致が重要です。Dはこの曲のテーマ、休符で呼吸を揃えるように合わせてください。Gはサンバ風なバッキングと 4th のベースがピッタリと合うように心がけましょう。ここはアドリブできればパートを入れ替えたりして、全員がソロをとってもよいところです。ぜひチャレンジしてみてください。（平倉信行）